第36回鯛釣り大会（本社主催）

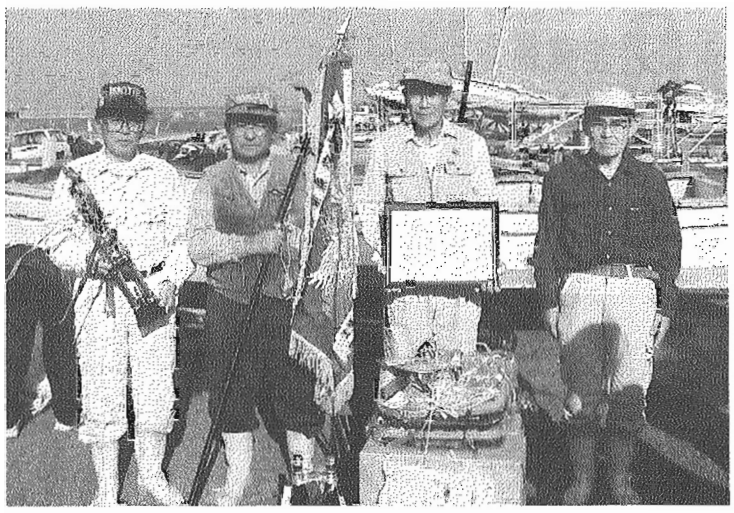
大楠クラブが優勝

準優勝はBM会

鹿児島建設新聞主催の第36回鯛釣り大会は26日、鹿児島市平川沖の錦江湾で16チーム64人が参加して繰り広げられ、総重量34キロ超の釣果をあげた大楠クラブが平成11年以来4年ぶりの優勝を飾った。準優勝はBM会、3位にはチーム安田が入った。

同日は絶好の釣り日和に恵まれ、各チームとも〝大漁〟を目指して集合。前回優勝の新日本本試験室から優勝旗が返還され、午前7時、一斉に錦江湾に向けて船出。約8時間にわたり、それぞれのポイントで奮闘、午後3時までに全船は帰港、指名魚の鯛の計量を行った。

その結果、大楠クラブが3万4410グラムを釣り上げ、2位・BM会の2万7318グラム、3位・チーム安田の1万4640グラムを引き離して圧勝した。



4年ぶりの優勝を飾った大楠クラブチーム

優勝した大楠クラブの木脇祐二さんは「いつもの釣り仲間と出場し、久々の優勝という感じです。船頭さんにも恵まれ、4人が着実に釣り上げ、重量的にも満足できる成果を収められました」と、4年ぶりの本命優勝を喜んでいた。

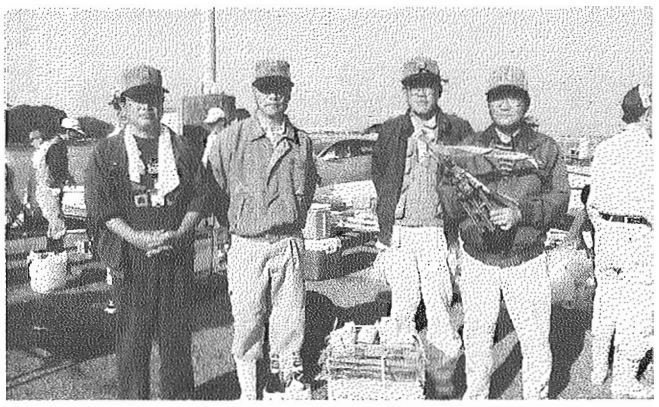
準優勝したBM会の吉井一八さんは「昨年が同じメンバーで一八建設として出場、準優勝だったので、今年こそと全員で優勝を目指し頑張りましたが及びませんでした」と残念そう。チーム安田3位に入った同チームの安田克郎さんは「みんなが力を結集して入賞できました」と語った。

また、大物賞は956グラムを釣り上げた是枝良実さん（なんぎんチーム）。昨年の大物賞よりも大きく、「この程度が精いっぱいでしょう」と苦笑い。外道大物賞はチーム安田の狩谷広美さん。1148グラムのチヌを釣り、「これが鯛だったらよかったのに。それでも、チームが3位に入り満足です」と話していた。

閉会式では、大迫純隆本社社長が「皆さんのご協力で、今年も盛大に開催することができました。天候に恵まれ、久しぶりに釣果もあがり、例年になくハイレベルの上位争いとなりました。今後も各分野でご活躍されるとともに、来年もぜひ参加してください」と謝意を込めて挨拶、各入賞者に優勝旗、賞状、トロフィー、副賞などを手渡した。

団体成績は次の通り。

優勝＝BM会▽3位＝チーム安田▽4位＝県建設センター▽5位＝新日本試験室▽6位＝なんぎんチーム▽7位＝神野自動車▽8位＝三洋工業▽9位＝鹿児島信用金庫▽10位＝栄光電設



準優勝に輝いたBM会（上）と3位に入賞したチーム安田

大物賞の是枝さん

外道大物賞の狩谷さん

かごんま わっぜかフェスタ'03

元気な中小企業アピール

県中小企業団体中央会青年部会（櫟山幸男会長）の「かごんま わっぜか！フェスタ'03」は26日、鹿児島市の鹿児島総合卸商業団地協同組合会館で開き、28団体の青年部会等が出展参加、元気のある中小企業をアピールした。

このフェスタは、県内の業界団体青年部が各自の製品、技術、サービスを結集、実演や展示販売を行うことによって、一般県民に対して青年部の存在感を示すことなど目的に、今回初めて実施されたもの。

出展青年部のうち、県畳工業組合は畳の手づくりコーナーを設け、子供たちに好評。市管工事協組はサツマソイルの無料配布や下水道事業をPR。県板硝子商工協組は安全・安心の防犯ガラス、鹿児島電気工事業協組はオール電化製品の各実演、県室内装飾協組はタイルカーペットの展示販売、県鉄構工業会は耐震補強ブレースのパネル展示を行っていた。

県中央会の有馬邦春連携支援課長は「業種の異なる中小企業の若い人達が初めて企画したイベントです。このような機会を通じ、青年部同士の結束と、県民の方々への理解が深まればと思っています」と語った。

3連覇を果たした南九州金属工業チーム
＝日吉町の総合グラウンドで

手づくり畳に取り組む子どもたち
＝鹿児島市の鹿児島総合卸商業団地協組会館で

事務所協ソフトボール大会

南九州金属が3連覇

県建築士事務所協会（大原達也会長）は26日、日置郡日吉町の総合グラウンドで第30回記念ソフトボール大会を開き、正会員や賛助会から計14チームが参加して熱戦を繰り広げた結果、南九州金属工業が見事優勝、同大会3連覇を果たした。

開会式では、大原会長が「けがのないようにプレーして親睦を図ってほしい」と挨拶した後、4コートに分かれて試合を開始した。

競技はスローピッチ投法のトーナメント戦で行われ、各試合とも一投一打に歓声があがるなど熱戦を展開。決勝戦は、打線が爆発した南九州金属工業が16対8で川元設計を振り切り、見事優勝に輝いた。また、植村組建築士事務所がサンテック九州を破り3位入賞を果たしたほか、敗者復活戦では坂本建設が勝ち上がり、期待賞を獲得した。

成績は次の通り。

優勝＝南九州金属工業▽準優勝＝川元設計▽3位＝植村組建築士事務所▽期待賞＝坂本建設

建築士会全国大会

専攻建築士制度の確立等訴え

第46回建築士会全国大会が24日、宮崎県・宮崎シーガイアで開かれた。全国各地から4000人を超える建築士が参加。式典では、連合会長表彰、伝統的技能者表彰、連合会賞（作品賞）表彰などを行った。また、地域へ「12万人という関連団体で最大の建築技術者集団を持つわれわれは、時の流れとともに、多岐にわたって活躍している建築士の個々の専門性を市民に開示し、ユーザーの期待にこたえなければならない」と、継続能力開発（CPD）制度、専攻建築士制度へかける期待の大きさを示した。

次期開催地の和歌山県建築士会に大会旗を引き継ぎ、式典を閉じた。

ユーザーの期待にこたえよう――と挨拶する宮本会長＝宮崎県の宮崎シーガイアで

できるよう、継続能力開発（CPD）制度の推進と定着、専攻建築士制度の試行と確立、地域貢献の推進と実践活動への積極的参加を大会アピールとして採択した。

宮本会長は、建築界を取り巻く現状について、「経済安定期を迎え、フローからストックへと価値観が移りつつある中、建築技術は進展し続け、あらためて建築士の能力が問われている」と指摘。